



日本共産党  
北茨城市委員会  
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市議団  
ニュース

ご相談は  
お気軽に

市議会議員  
福田 明  
43-0468

市議会議員  
鈴木やす子  
42-2462

# 住民こそ主人公の町づくり

## 長野県木曾町(共産党員町長)を視察

(共産党員町長)が3期目

日本共産党市議団は7月15日、長野県木曾町を訪ね、「町づくり条例」「中心市街地活性化事業」「公共交通システム」などを視察しました。福田明市議の報告です。

### 町民と行政の「協働」

「木曾路はすべて山の中である」。島崎藤村の小説『夜明け前』の有名な一節です。この舞台の一つにもなった



## 花園川

先の「市河川海岸改修促進期成同盟会」で、福田明議員が「花園川を市民の憩いの場となる河川に戻すべき」と県に要望(前号既報)。先週から葎刈りが始まりました。

この条例によって、多くの事業を町民と行政の「協働」で推進し、各種委員の選出も住民公募を原則に行っています。現在、図書館建設検討委員会が発

「命の交通網」 高い評価を受けているのが「木曾町生活交通システム」です。同町は3年前に4町村が合併して県下一広い面積47.6kmですが、幹線バス、巡回バス、デマンドタクシーを組み合わせて、全町民を対象に町中どこでも百〜二百円で行けるとの

足し、「参加している住民は使命感を感じてやっている」と、当局はその波及効果を述べています。

全国でも数少ない成功例といわれる「中心市街地活性化事業」は、「歩いて感じるまちづくり」をテーマに、町が主体となる景観に配慮した町並み整備(公的施設、住居等)のハード事業と、

町民が主体となる観光ガイドなどのソフト事業からなっています。実際に古民家等を整備した町並みを歩きましたが、かつての中仙道の雰囲気を感じました。また、木曾川沿いに建つ「崖屋造り」の家は風情溢れるものでした。



ことです。このようすを朝日新聞は「木曾谷に命の交通網」と報道しました。

全国各地でバス路線等が廃止される中で、同町の取り組みは注目を集め、視察や講演の依頼が相次いでいる状況です。担当者は「町の支出は年1億2千500万円ですが採算は合わないが、住民に喜ばれているのが何より。住民福祉の側面もあり今後とも継続していきたい」と笑顔で語りました。

また、町長の発案した木曾学講座では、毎年、著名人を講師に招き、講演会等を実施。木曾音楽祭などともあわせて、講演や音楽界などの「集い」が多いのも同町の特徴です。

今回の視察では、木曾馬の関係でモンゴルに視察中とのことで田中町長と会え

高校生の次女に『もやしもん』という漫画をすすめられました。農業大学を舞台にして、個人的な登場人物とともに、たくさんのバイブル!たちが活躍し、発酵技術を生かした日本の食文化や世界の食材も描かれています。今年の手塚治虫文化賞を受賞しました。と、紹介するのは理由はあります。

我が家では、化学農薬を使わない農業に取り組んでいます。お世話になつて20年来、お世話になつていて特別な「お酢」があります。ヒヨコの飲み水や、種モミを漬ける水に混ぜたりしています。

北茨城市議会議員  
鈴木やす子

## 「もやしもん」

のような建物の中を見学させていただき、若い後継者が、五代目見習いの肩書きでお話を聴かせてくれました。そのときに「勉強してきた発酵や醸造の世界が、漫画でもしるく描かれ、世間の人に紹介してもらえのはうれしいですね」と、漫画『もやしもん』も話題になったのです。

翌日の行政視察で、同社の酢や、その原料として棚田に人を呼んでの米づくりが「エコスタイルで街づくり」のお話の中でもふれられました。うちで愛用してきたこだわりの製品に光が当てられ、行政もバックアップしていることに我が意を得たりの思いでした。

ただし売り上げは伸びてはいないとのこと。たしかに値段も安くありません。そういう中で同社は「新しいことにも挑戦しつつ、しかし材料と製法にこだわること。スタイルは変えませんが」と、きつぱり、力強い後継者の決意に心打たれ、またその志は、我が家で試行錯誤を重ねている有機農業ともおおいに通じるところがあると感じました。

なかっただのは心残りでしたが、共産党の上田とめ子町議と親しく懇談。同議員によると「町議会は定数18名で共産1、公明1、無所属16で、田中町長の実質、オ

ル与党となつている」そうです。歴史を生かしながら、町長を先頭に創造性豊かに町づくりをすすめる姿を垣間見ながら木曾を後にしました。